



エコネット町田 通信

ECONET Machida Newsletter

東京のあすを創る協会の運動推進大会の報告

テーマ：2020 東京オリンピック・パラリンピックをもっと知ろう！

3月5日、都庁会議室で上記テーマのシンポジウムに参加しました。特に次代を担う子供たちに何を残し、何を伝えるかが話し合われ、講演は柔道メダリスト・筑波大学教授で日本オリンピック委員会理事の山口香さん。パネラーはリオパラリンピック車いすテニス日本代表の二條さん、都の障害者スポーツ協会の菊池事務局長、都教育庁でオリンピック・パラリンピック教育推進担当課長の荒川さん。進行役はNHK解説委員の西川さん。

山口香さんの講演内容

オリンピックとしての自分の経験や教育に長年関わってきた立場から、以下のような論点で述べました。歯切れの良い語り口で、皆さん真剣に聞いていました。

- ①オリ・パラリンピックは多くの感動がある。
- ②自分一人で成し遂げられることは少なく多くの関係者の輪でなり立つ。
- ③努力は人を裏切らない。
- ④人はルールの中でフェアに競い合うことで友を得、成長・進化する。
- ⑤自分の時代は我慢と根性での世界であったが、現代はさらにクリエイティブな人間が求められる。
- ⑥ドーピングなど負の側面もあるが、私たちがインスパイアする力がある。2020大会が子供達や若者にインスパイアされる大会になることを祈っている。

車いすテニスの二條さん

彼女は大工棟梁をしていたが23歳の時、建築現場から転落し脊髄を損傷し車いす生活に。退院後始めた車いすテニスでプロとして活躍し、リオではダブルス4位入賞。態度や言動が明るく超積極的で障害者スポーツ振興に取り組んで

いる。リオのパラリンピックのアスリートとして特別の場所での経験を生かし、各種スポーツ振興イベント開会セレモニーや、プロ野球の社会貢献プロジェクトにも参加するなどの彼女の生き方に聴衆の皆さん感動していた。

都の障害者スポーツ協会の菊池さん

菊池さんは東京都が障害者スポーツの振興、理解促進・普及を図り、選手の競技力向上を支援し、スポーツ大会を開催している公益社団法人の旗振り役。誰もがいつでも、どこでもスポーツを親しむことができ、障害者スポーツという言葉がなくなるようにしたいと強調していたのが印象的でした。

教育庁の荒川さん（山崎小学校元副校長）

オリンピック・パラリンピックを子供たちの成長に繋ぐべく学校での取り組みを策定している。①「オリ・パラリンピック感動の記憶を残す」。②「多様性の理解や国際交流など学校での教育活動が大会後も続ける」。③「ボランティアマインドの醸成、障害者理解の取り組みを家庭・地域でも普及させる」という3つのレガシーの形成を図るとのことです。（瀬川記）

ボランティアの玉手箱で発表

～社会参画への第一歩～

主催 町田ボランティア連絡協議会

3月18日(日)、町田市健康福祉会館で町田市社会福祉協議会の協賛で、これからボランティアを考えている市民向けに、ボランティアを続けている団体からそれぞれの活動を語り、社会参画の一助になればと、このイベントが行われました。

町田ボラ連協が従前実施してきた連絡協議会の登録会員向けの「施設見学会」を見直し、これに変わる新たな企画として実施したものです。エコネット町田は活動報告する団体として参加要請を受け、瀬川と杉山で発表しました。参加した3団体もこのイベントの実行委員に加わり準備をしてきました。

当日は冒頭に町田ボランティアセンターの館川さんが、ボランティアとはどうゆうものか、この活動の4つの原則、ボランティアセンターのなりわいなどを平易に説明。同センターはボランティア活動を支援するために設置され、ボランティアに関わる総合窓口ですのでお気軽に声かけをお待ちしていると挨拶。

当日は耳の不自由な方が多数参加されていたので、手話通訳のほか字幕つき画像も用意されていました。

最初は高齢者福祉施設などで傾聴ボランティアを続けている「グループそらまめ」の皆さん。訪問する施設では歌声で音楽療法に注力していることで、参加者と皆で童謡を歌いました

お揃いの緑ベストの「出前歌おう隊」の活動の雰囲気が伝わり、会場は一気に和やかな雰囲気に変わりました。

次は「エコネット町田」の番です。活動紹介発表は、私がボランティアをするきっかけと、その後ボランティアを通じていろいろな人のつながりが増えてきていることを話し、エコネット町田の発足経緯や市内の三つの河川と源流公園を定期清掃している活動状況を説明しました。

この清掃活動は都の建設事務所と、夏休み体験ボランティアなどでは町田ボランティアセンターと提携して取り組んでいる様子も伝えました。エコフェスタへの取り組みや、7月の真光寺川での川まつりも触れました。

最後は小学校での環境学習で行っている水質調査の実際を体験してもらいました。当日採取した恩田川の水を持参し、5名の代表の方にお願ひしてCODキッドでの検査をしました。会場の皆さんには初めて体験したようで、恩田川の水は思っていたより、きれいなことで驚いていました。我々の活動が河川清掃だけでなく、多方面との連携で活動の多様化している姿が印象に残ったようです。

最後は障害者支援をしている「字幕ファーム」の皆さん。2016年7月に設立した新しい団体でした。聴力に障害ある方々に手話のほか、文字情報もあればいろいろな展開の道が広がるので活動していました。

私が活動発表した内容も手話と言葉が画像で同時に流されており、その技術手法は驚くものでした。三葉亭冷奴さん落語が登場し、「あくび指南」などを実演。登場人物ごとに字幕文字は色が変わり、落語家さんの身振り、手振りとで進められていくものでした。今回はいずれも工夫を凝らした発表で参加された皆さんは楽しめたようでした。

(瀬川記)



推進会議トーク&ディスカッションから

日本の心 剣道入門

杉山 誠

去る11月26日(日)、エコネット町田推進連絡会議T&Dで「日本の心・剣道入門」をお話し致しました。環境エコにはかけ離れた話題でしたが、10月1日(日)に毎年の主行事である「2017第26回町田エコフェスタ」も初めての市庁舎開催ながら8,000人もの来場を得て好評に終了でき、これからまた新たな気持ちでエコに取り組む意味でお話し致しました。

私如きが「剣道入門」を開くなどおこがましい事です。ただ、小学、中学、高校と青少年時代に、自分達で雑巾掛けした板道場で正座から始めた稽古は60年過ぎた今も清々しく思い出せます。師範の手荒い掛かり稽古。部内の5人が選ばれ出場する団体戦で町大会、県大会など、大事な所で敗ける、ぎりぎりを踏んで救う、そして優勝。敗けたら励まし、勝ったら皆同じに喜び合う、そんな一剣道場の悲喜は私に、良い、懐かしい思い出として残っています。剣道をやって良かった、技を磨く他に先輩、同僚との交流の心が磨かれることをお伝えしたいのです。

剣術と剣道

剣術は日本歴史の創成期から狩猟、戦いの術としてあったものです。そして明治維新から、それまで人々の生活の中にあった剣(帯刀)が廃止されました。「剣道」はその後、「剣の心」は守って行こうと生まれた国技です。今日では運動競技として改称されたスポーツですが、やはり古来日本人が守ってきた日本人独特の精神を学び、培う

ことが目的の一つです。「剣道」としたのもより良い精神修養の道をと考えたものです。加納治五郎も同様に柔道の「道」を強調しました。近年は大半が西洋文化の生活ですが、剣道を通して“古い日本の心”を見直そうという人が増えています。また外国人も、「NPO国際剣道クラブ」などの普及活動により、剣道入門者が増えています。剣道もオリンピック競技にの声もありますが、競うことより、心の修養を大切にという声が多いようです。

日本特有の剣、「刀」は私達の心を惹き付けます。外国人にも愛好者は多くいます。しかし刀は常に悲劇の中にも在ったのです。研ぎ澄まされた真剣の美しさは素直な気持ちで観てほしいものです。

礼に始まり、礼に終わる

剣の方を競うからこそ礼に始まり、礼に終わる。水面の静寂の如く平常心、振り子の如く規則正しい礼、だが一度起れば猛虎の如く舞う、終われば互いに敬い、礼。

心、技、体の一致

試合においては心、技、体整った打突が一本となる。剣道修練の目的も心、技、体の一致向上。技即ち剣術のみの向上でなく、体即ち体力のみの向上でなく、心即ち精神も併せ修練されなければならない。

修文練武

文武両道のこと。学業のみでなく体育も行うという考えは今日の学校教育の理念とされ、共通する。

この他に武の三則(正義、廉恥、礼節)や

三合い運動（譲り合い、助け合い、押し合い）などある。

身近な「剣道の心入門」

宮本武蔵（1584～1645）五輪書＝晩年近60歳で雲巖洞に籠り完成。武蔵最晩年62歳の書に「独行道」がある。吉川英治著「宮本武蔵」「それからの武蔵」

NHKテレビ「忠臣蔵」主君浅野内匠頭の刃傷、切腹から無念に決起する赤穂浪士47士。

千葉周作（1794～1855）北辰一刀流創始、陸奥出身といわれる。福井英一、武内つなよし著「赤穂鈴之助」（実在？）は千葉道場の門下。昭和30年代「少年画報」、そしてTBSラジオで大人気となる。古永小百合さんは当時子役・声優で鈴之助の恋人？「さゆり」でした。

その他、塚原卜伝（鍋蓋受り）、柳生宗矩・十兵衛、小野次郎右衛門忠常（小野派一刀流創始）、佐々木小次郎など武勇伝は数多い。

近年は時代物が少なくなりましたが、池波正太郎「御宿かわせみ」藤沢周平「捕り物控」など興味あります。

剣術流派の系譜

安倍晴明（921～1005）京八流。飯篠長成寄家直（1387～1488）天真正伝香取神道流。松本備前守政信（1467～1524）鹿島神流。塚原卜伝（1489～1571）新当流。上泉伊勢守信綱（1508～1577）新陰流。柳生宗厳・宗矩・十兵衛（1500年代）柳生新陰流。伊東一刀斎（1550～1653）一刀流。宮本武蔵（1584～1645）二天一流。佐々木小次郎（1595？～1612）巖流。小野忠常（1608～1665）小野派一刀流。千葉周作（1794

～1855）北辰一刀流。などなど、今日も各地で受け継がれている。

古刀、新刀、新々刀

古刀（平安～桃山末期）

大原安綱、三条宗近、古備前物、一文字各派＝以上平安。左近因綱、五郎入道正宗、左近将監長光＝以上鎌倉。長谷部因重＝南北朝。千五村正＝室町。孫六兼元、和泉守兼定、河田貫正国＝以上戦国。

新刀（慶長元年1596～安永末年1781・江戸後期）

堀川国広、井上真改、一竿子忠綱、相模守政常、越前康経、大和守安定、長曾禰虎徹、会津兼定、山城守国清、辻村兼若、南紀盛国、忠吉一門＝以上江戸。

新々刀（天明元年1781～幕末・明治初）

水心子正秀、南海太郎朝尊、奥元平、源清盛＝以上江戸。

上杉謙信は古刀一文字、加藤清正は古刀同田貫正国、近藤勇は新刀長曾禰虎徹（偽物との説も）、勝海舟は新々刀水心子正秀（一度も抜かなかったとか）。

柄に収まる茎（なかご）の部分には刀工銘や「二つ胴」「三つ胴」とある。三つ胴とは試し斬りで死罪人を3人重ね斬りできたというから怖い。

結びとして

連足の「剣道入門」でしたが、歴史を知る上で、覇者、敗者、また正、悪のみで見るのではなく、その当時も必ずあったであろう剣の道、心を探すのも無駄ではないと思います。とかく便利になった現代に居て、日常忘れてしまった何かが見つかるかもしれません。エコネット町田会員・杉山 誠 女会員の皆様、是非、T&Dにご参加を。

東京のあすを創る協会から表彰される

～瀬川代表が個人表彰される～

東京のあすを創る協会の運動は生活課題や地域課題を考え、安心社会の実現を目指す運動です。昭和30年代始めの「新生活運動」としてスタートしたので、今年が60年目となります。この協会の活動は、活動関係者への啓発や機関誌等の作成、活動助成金での活動支援、各種フォーラムの企画などのほか、功労団体・功労者表彰も行っています。

行 事 案 内

行事名	実施場所	実施日			実施時間
		4月	5月	6月	
恩田川清掃	恩田川上流端～旧高瀬橋	05	03	07	10時
真光寺川清掃	真光寺川全域	08	13	10	9時30分
境川清掃	鹿島橋近辺	--	10	--	10時
滝の沢源流公園清掃	公園内	22	27	24	10時
推進連絡会（5月は定期総会も）	市民フォーラム4階ボランティア活動室B	22	27	24	14時
T&D	同上	22	--	24	15時以降

エコネット町田通信 第90号 2018年3月25日発行
発行人 瀬川 晋
〒194-0031 町田市南大谷 1327-128 TEL/Fax 042-722-2827
エコネット町田HP：<http://econetmachida.web.fc2.com/>